

# 祝 祝 東都大学図書館通信

## (沼津キャンパス創刊号)

読書の秋も深まってきました。この度、図書館通信を創刊いたしました！これからより広く皆さまに図書館の情報や、お勧め本などを楽しく紹介していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします！

### 創刊号 Contents

- ☆ 巻 頭 言・・・沼津分館長 松田正己先生
- ☆ 学 部 長 挨拶・・・沼津ヒューマンケア学部長 太田勝正先生
- ☆ 教員のおすすめ本・・・高齢者看護領域 鈴木久義先生
- ☆ 図書館の利用案内・・・図書館マップ 図書館ボランティア活動

### 巻頭言 松田正己分館長

本年 4 月に開学いたしました、沼津ヒューマンケア学部の分館長を拝命いたしました、看護学科の松田正己(公衆衛生学)です。図書館運営委員の中野禎久・玉城紫乃・中山祐子と共に、よりよい図書館の運営に努めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。現在のデジタル化、情報化社会の中で、図書館は、単に本を蓄積する空間としてだけではなく、学生さんや教員のラーニングコモンズへと脱皮しようとしています。沼津分館は、富士山の見える図書館として、また、元結婚式場であったというデザイン性が特徴です。よりよい情報施設としての図書館を目指して参りますので、皆様のご支援、ご協力を賜りたいと思います。

### 太田勝正学部長 挨拶

沼津ヒューマンケア学部の開設とともに本年 4 月より、東都大学図書館沼津分館が開館しております。開架図書コーナーに一直線に並んだ書架には、基礎医学から看護の基礎と専門領域の図書が並び、その前に学生の自習スペースが 37 席（内 2 席は視聴覚教材閲覧用）に渡って連なる、大坪理事長ご自慢のレイアウトの図書館です。

さて、人類が獲得した知識を記録した資料の保管庫として始まった図書館ですが、今日、図書館の大きな機能はラーニングコモンズとしての学習支援のための図書やネット情報の統合、学修仲間との情報交換の場へと発展してきています。沼津分館はまだラーニングコモンズとしての要件を満たしていませんが、手にとった図書をその場でじっくり読み解くスペースを確保した「直線型」開架図書コーナー、多数のパソコンを備えたメディアプラザ A、それにグループ閲覧室などを備え、学修者のニーズに応えるべく歩みを始めています。大学に来たら図書館に立ち寄る。友達とは図書館で待ち合わせをする。図書館がそんな皆さんの大学生活の核になることを期待しています。



## 教員のオススメ

### 火垂るの墓

看護学科 高齢者看護学 講師 鈴木久義

コピーライト ©野坂昭如/新潮社,1988

発売元 ウォルト・ディズニー・ジャパン

価格 5170 円 (税込)

『火垂るの墓』を、ほとんどの人が知っていると思います。この映画を何度も観るきっかけになったのが、新型コロナウイルス感染拡大による臨地実習の中止でした。

実習目標に「高齢者の価値観・信念が説明できる」といったものがあり、2 年生に、「価値観・信念ってわかる？」と聞いたときに「わからない」と返事がありました。それが、1 人や 2 人でなかったのです。この状況をみて、人の価値観・信念を想像する経験が必要だと思いました。そのときに、『火垂るの墓』を取り上げ、学内実習の一部として使いました。

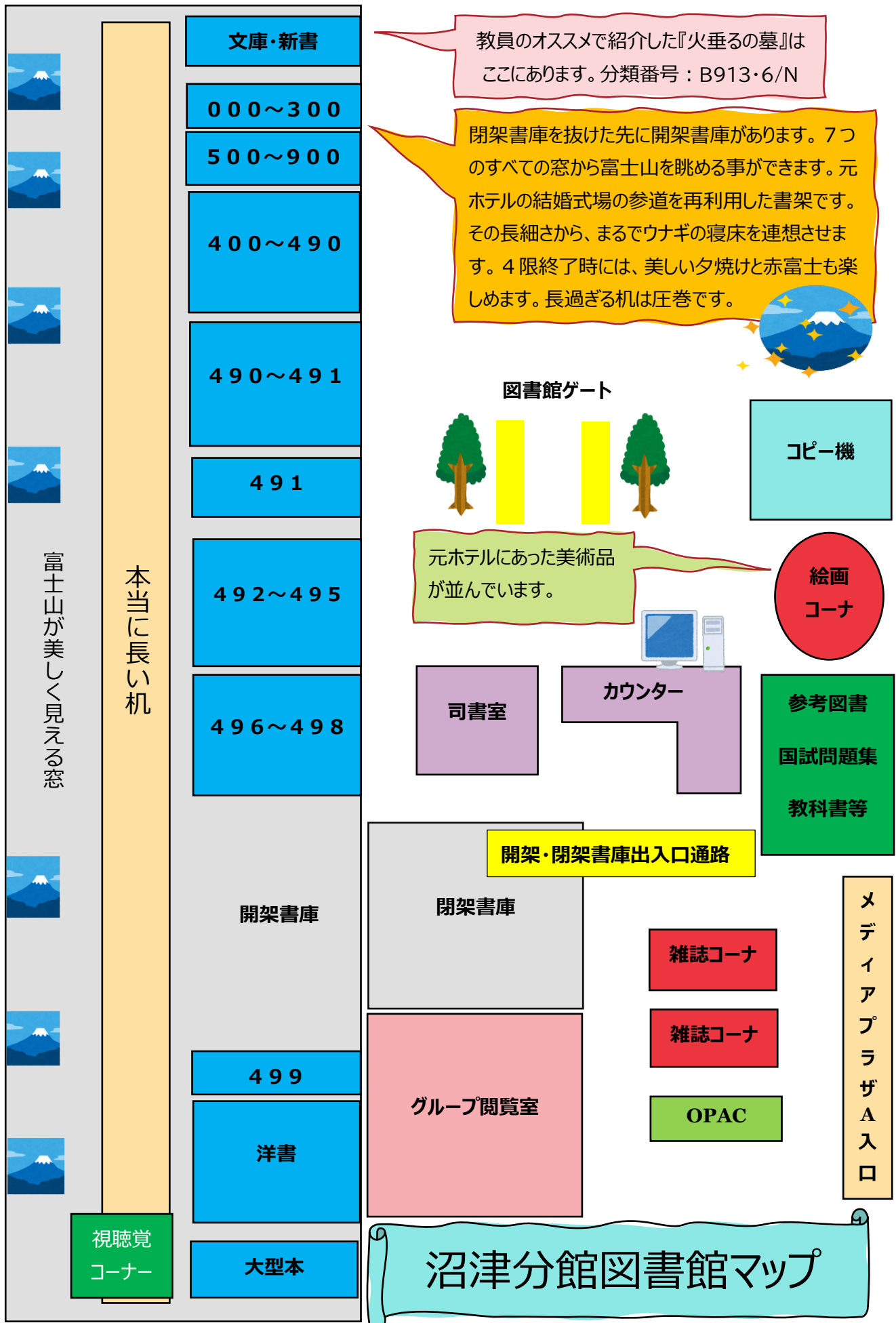
主人公である清太と節子ですが、最後に死んでしまいます。その過程には、清太と節子の様々な思いを持った選択があります。この選択の結果として、2 人は死んでしまいます。私は、「この死んでしまった清太と節子は、幸せだったのか」を発問として、その理由とともにディスカッションをしてもらいました。この発問の意図は、二人が大切にしていたことは何か、を考えてもらうことで、清太と節子の価値観や信念に心を寄せることでした。

高齢者看護学は、その人の価値観や、信念を大切にします。まずは、価値観や信念に寄り添うきっかけとして、この映画をお薦めしたいと思います。

#### 図書館より

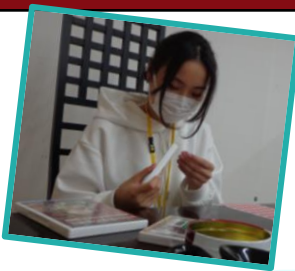
『火垂るの墓』が放送される夏の日の朝は、何かしらの覚悟を持って放送を待ちます。「人生で 1 回は見るべき作品」であると思い、気合を入れなければ軽い気持ちでは決して見られない作品でもありました。『火垂るの墓』は沼津キャンパスの図書館にも所蔵があります。映像を見る限りでは長い作品と思いきや、実際の原作は 30 ページ弱です。子供目線で「生きる事の辛さ」、「生き抜く事の大変さ」を描いています。缶入りドロップを見るたびに 4 歳と 14 歳で「生きよう」と決意した 2 人が脳裏から離れません。(第 58 回直木賞受賞作品)





## 図書館ボランティア登場！

看護師を目指す学生であっても、他の職業が気になるお年頃。そんな訳で、有志の学生より、「図書館の仕事を経験してみたい！」「図書館ってどんな仕事しているの？」「司書さんを手伝いたい！」という学生の有り難きご要望にお応えして、図書館ボランティア活動を始めました！興味のある方は図書館カウンターまで。



ボランティアに参加してみてもいいか？★仲間と一緒に学校に貢献する行為を図書館のために行えたのは良かったし楽しかった★純粋に楽しかったです。司書さんはこんな仕事をしているのだと学ぶ事ができたし、まだ知らない本や教材を知る機会にもなりました。また参加したいです。★1期生しかいない新しい大学で0から自分達で作りに上げていくという事に図書館から携わる事が出来て、自分達で大学を作るという実感が出来た。これからも積極的に参加していきたい。

**ボランティアの一言** あなたにとって図書館とは★趣味を楽しむ事が出来る憩いの場です。図書館には多種多様な本が揃っています。普段、触れないような本にも出合う事が出来ます。まるで宝探しの様な気分を図書館を利用します。普段読む本の系統に偏りがあるので図書館に行った時はフツと目に入った本を借りるようにしています。それが新たな気付きや学びに繋がります。図書館は自分のステップアップや自分を豊かにする場でもあると考えます。また、司書さんとお話できる、ストレス発散の場でもあるかなと思います。（図書館司書さんに会いたくて行くときもあります♡）★唯一休まり、知識が手に入る大好きな場所です。★参考書・小説・図鑑など様々な本や、自分の知らない世界や考え方と出会う事が出来る場所だと思います。★新しい出会いの場！

**あとがき** 沼津キャンパス初の学祭が11月20日に行われました。そのテーマは「一歩」。この様な状況下でも、大学・学生が新たな試みとして、一歩前に踏み出すという意味がこめられているそうです。沼津キャンパスの図書館も同じく、その一歩をまだ踏み出したばかりです。図書館は大学の心臓とも言われます。学生に新しい知識を送りこみ、看護学生の血や肉となるよう、春に出会った若い細胞たちを活性化させ、社会に貢献できるよう、学生と共に日々、一歩一歩進んでいきたいと考えます。その思いはいつも夕暮れになると「今日も夕焼けが綺麗ですよ。」と、学生が教えてくれるたびに強く感じる晩秋の今日この頃です。次回の図書館通信は初夏の頃の発行になります。その頃にはきっと、また新たな可愛いらしい細胞が増えている事でしょう。

沼津キャンパス学生作品



また、若葉の季節  
に会いましょう！



創刊号 2021年11月24日 発行



発行者 東都大学沼津キャンパス 図書館運営委員会

【編集協力】松田正 中野禎久 玉城紫乃

【編集】沼津分館司書 中山祐子